



2019

京都造形芸術大学

大学院

芸術研究科(通信教育)

芸術環境専攻修士課程

[授業科目概要]

INDEX

京都造形芸術大学

大学院

芸術研究科(通信教育)

芸術環境専攻修士課程

[授業科目概要]

2019

修了要件一覧…………… 01

授業科目概要

専攻共通…………… 01

分野特論…………… 02

芸術環境研究領域…………… 03

美術・工芸領域…………… 03

環境デザイン領域…………… 04

超域プログラム…………… 04

自由選択科目…………… 05

修了要件一覧

	芸術環境研究領域 【比較芸術学／文化遺産・伝統芸術／ 芸術教育／芸術環境計画】	美術・工芸領域 【日本画／洋画／陶芸／染織】	環境デザイン領域 【建築デザイン／日本庭園】	超域プログラム 【制作学】
専攻共通	6単位以上			
分野特論	8単位以上			
演習科目 (1年次～)	8単位			
研究科目 (2年次～)	8単位			
修了要件	30単位以上 (「修士論文」あるいは 「修士研究活動実施報告書」の 審査および試験に合格)	30単位以上 (「修士制作作品および 制作研究ノート」 の審査および試験に合格)	30単位以上 (「修士制作作品および制作研究ノート」 あるいは「修士論文」※① あるいは「修士研究活動実施報告書」※① の審査および試験に合格) ※①:日本庭園分野のみ	30単位以上 (「修士制作作品および制作研究ノート」 ※② あるいは 「修士論文」※③の 審査および試験に合格) ※②:千住ラボ・小笠原ラボのみ ※③:後藤ラボのみ

授業科目概要

2019年度開講予定の授業科目紹介です。授業内容は変更される場合があります。

必…… 必修科目(必ず履修しなければならない科目)

選…… 選択科目(履修を各自で選択できる科目)

選必…選択必修科目(いずれかの科目を必ず履修しなければならない科目)



TX = テキスト特別科目 / **S** = スクーリング科目 / **WS** = Webスクーリング科目 / **SR** = スクーリング演習・研究科目

専攻共通





科目名	科目分類	単位数	履修内容
芸術環境論特論 I TX	必	2単位	芸術と環境とを異種の二元とせず、ともに相互に浸透し合い、人間による制作的な所産として考察することにより、従来の美術や職業的なデザインの枠を越えた新たな芸術への視座を手に入れる。
芸術環境論特論 II TX	必	2単位	特定の環境下における人間の芸術活動の成立と今日的なありかたを、具体的な事例を調査しつつ、考察する。
芸術環境原論 I TX	選必	2単位	芸術環境という語は決して明確な定義づけのもとに使用されていない。芸術環境は自明のものとして与えられるわけではなく、人間の活動と周囲との相互作用のなかで生み出されるものである。本科目では、履修者それぞれの居住地における「芸術環境」を発見することが目的である。「美」は発見されることを待っている。「美」の発現する場を発見し、それを形にすることを通じて、「芸術」を「生きる」ことの意味を考える。そのため、各自が身の回りの芸術的な経験を見出し、記述するとともに、それを一定のフォーマットにまとめ、図示し、あわせて地域史的・歴史的な文脈のなかでその経験の位置づけを試みることを課題とする。
芸術環境原論 II TX		2単位	カルトグラフィー cartography とは、一般には地図の作成法を指す。しかし地図として表現されたものは地図の目的や抽出する情報の性質と密接に関係しており、我々の環境の把握は、地図的な空間表象の形によって作られるとも言える。本科目では一定地域の情報抽出とその表現という作業を通じて、自然環境や社会的な関係、また歴史の厚みや生活の中で経験されるさまざまな感覚をどのように空間的に表現し、環境として構構することができるのか、ということ学ぶ。

分野特論



科目名	科目分類	単位数	履修内容
芸術環境特論 I-1,2 TX	選	各2単位	芸術環境を研究するさまざまなアプローチの仕方を学ぶため、それぞれの重要文献をもとにして、学生の方法論的考察を深める。 ※芸術環境研究領域(比較芸術学分野、文化遺産・伝統芸術分野)必修
芸術環境特論 I-3 TX	選	2単位	修士論文を書くための基礎的な能力を養う科目。先行研究を収集し、批判的に読解するための知識と方法を実践的に身につける。 ※芸術環境研究領域(比較芸術学分野、文化遺産・伝統芸術分野)のみ履修可かつ必修
芸術環境特論 V-1~10 S	選	各1単位	担当教員のその年々の研究内容を反映した講義。比較芸術学、文化遺産・伝統芸術という各分野の専門的な講義を通じて、各自の視野・知見を広げるとともに、研究テーマの設定、調査・分析、論証の手法を修得する。 ※芸術環境研究領域(比較芸術学分野、文化遺産・伝統芸術分野)は2科目選択必修
芸術環境特論 III-1,2 TX	選	各2単位	III-1では芸術活動の持つ自己教育的な側面を古典的著作の読解を通じて学ぶとともに、社会のなかでどのように芸術活動を生かすことができるのかを考察する。 III-2では今日の芸術活動の射程をあらためて反省し、芸術のもたらす身体性や場所性を考慮しつつ、その社会教育的な役割について実践的な理解を目指す。 ※芸術環境研究領域(芸術教育分野、芸術環境計画分野)のみ履修可かつ必修
芸術環境特論 VI-1,2 S	選	各1単位	個的な身体に内在する芸術活動をどのように外部に開いてゆくのか、またその教育可能性を、社会活動や自然素材とのかかわりを通じて学びます。 ※芸術環境研究領域(芸術教育分野・芸術環境計画分野)のみ履修可かつ必修
芸術環境特論 VI-3,4 S	選	各1単位	芸術活動の場をどのように作ってゆかについて、子どもを対象とした場合や地域社会を対象とした場合に即しつつ、方法論的な考察を深めます。 ※芸術環境研究領域(芸術教育分野・芸術環境計画分野)のみ履修可かつ必修
美術・工芸特論 I-1,2 TX	選	各2単位	I-1では美術・工芸に関する古典的著作を批判的に読み解くことを目標とし、I-2ではそのうえで各自の制作行為を今日の社会環境のなかに位置づけて考察することを目標とする。制作という営みは決して個人的な表現内に完結するものではない。技術という共有物を用い、また言語や感性的規範といった社会的な構成物とともに遂行される。そうした制作を支えるものに対する洞察を深め、それを反省的な言語によって記述することを2つの科目を通じて行う。 ※美術・工芸領域必修
美術・工芸特論 II-1,2 S	選	各2単位	美術・工芸領域各分野の担当教員をはじめとする複数の教員により、「京都からの風」をテーマとした講義を展開する。授業を通じ、自身の制作・研究に対する思想的背景の確立および批評的意識を養うことをめざす。 ※美術・工芸領域必修
環境デザイン特論 I-1,2 TX	選	各2単位	I-1では「プロジェクト研究(日本庭園)」、I-2では「工法・技法研究(日本庭園)」について、教材の精読、資料収集・調査・整理・分析を行う。それらを通して、自身の修了制作・研究テーマを抽出するための知見および洞察力を獲得し、さらには自身の研究を客観的に位置づけることのできる判断力を養う。 ※日本庭園分野必修
環境デザイン特論 II-1,2 TX	選	各2単位	II-1では「建築論」「日本庭園論」、II-2では「都市論」「ランドスケープ論」からそれぞれ1課題を選択し、教材・文献の精読、整理・分析・評価を行う。これらを通して、自身の修了制作・研究を進めるための環境デザイン領域共通の理論的背景を共有・獲得し、さらには環境デザイン領域の視点から自身の制作・研究を再検証するための契機をあたえる。 ※II-1は環境デザイン領域必修、II-2は日本庭園分野必修
環境デザイン特論 III-1,2 TX	選	各2単位	III-1では「プロジェクト研究(建築)」、III-2では「工法・素材研究(建築)」について、教材の精読、資料収集・調査・整理・分析を行う。それらを通して、自身の修了制作・研究テーマを抽出するための知見および洞察力を獲得し、さらには自身の研究を客観的に位置づけることのできる判断力を養う。 ※建築デザイン分野必修
環境デザイン特論 IV-3,4 S	選	各1単位	設計事務所の業務や倫理に関する講義に加え、法規・施工・生産に関して具体例に沿った技術的知識を習得する。 ※建築デザイン分野のみ履修可かつ必修
超域制作学特論 I-1,2 TX	選	各2単位	近現代の制作行為にかかわる批評言語の習得のため、いくつかの範例的な文献を参考にして、キーワードとその用法を理解する。I-1では20世紀美術の用語を、II-2では近代デザインの基礎概念を扱う。 ※超域プログラムのみ履修可かつ必修
超域制作学特論 II-1,2 TX	選	各2単位	今日の制作活動における社会性のありかたを理解することを目標とし、サイト・スペシフィック・アートの実作例の紹介と、それに基づいた発表とディスカッションを通じ、各事例の制作意図と方法、またその効果を検証する。 ※超域プログラムのみ履修可、千住ラボ必修
超域制作学特論 III-1,2 TX	選	各2単位	先端技術サーベイを通して、情報源の要約能力を身につけることを目標とし、それに基づいた発表とディスカッションを通じ、企画開発する能力を養う。 ※超域プログラムのみ履修可、小笠原ラボ必修

科目名	科目分類	単位数	履修内容
超域制作学特論 IV-1、2 		各2単位	本科目はコンテンポラリー・アートの諸文脈を理解するため、学生の発表とそれに対する指導講評を通じて指定された文献の読解を行う。 ※超域プログラムのみ履修可、後藤ラボ必修









芸術環境研究領域 演習科目

科目名	科目分類	単位数	履修内容
芸術環境演習 I 		4単位	午前中は研究の基本となる方法論や考え方を修得するための準備として、研究ジャンルに応じたゼミに分かれ、WEB上および対面授業において各ゼミ共通の作業課題(文献の購読・調査報告)についての発表・討論をする。 午後は修了研究に着手するための事前指導。各自の問題意識に基づき修了研究につながるテーマを設定する。研究の方法論を探るとともに、対象についての<調査、分析、まとめ、提案・報告>という一連のプロセスを通じて、研究領域の深長・発展を図り、修了研究の方向性を決定する。
芸術環境演習 III 		4単位	



芸術環境研究領域 研究科目

科目名	科目分類	単位数	履修内容
芸術環境研究 I 		8単位	修了研究を完成させるための科目。自らが提起したテーマについて、芸術全般に関する総合的な知識と視野に裏打ちされた、新しい、あるいは独自性のある知見を得るべく研究を拡張させ、最終的には一定の見解を導くとともに、その見解に達するまでの思考のプロセスを、論理的に説明できることが求められる。

美術・工芸領域 演習科目

科目名	科目分類	単位数	履修内容
美術・工芸演習 (日本画) 		8単位	日本画における対象物との関わり方と、表現の核となる精神性を改めて問い直してみたい。そのためには形だけではなく「生」を写す写生の在り方に立ち返ると同時に自己の内面を深く見つめること、またさまざまな表現技法と描画材料の理解・探究が必要である。本科目では、各自の創作の主題を追求しつつ、活躍している画家の話に耳を傾け、また素材の研究を通じて表現技法の巾を広げていく。
美術・工芸演習 (洋画) 		8単位	ゼミ形式で指導を行いながら各自の表現をより専門的に深く掘っていく。現代の絵画を考察しつつ「創ること」「描くこと」の意味を改めて問い直し、単なる形式の新しさではなく思考としての新しさを探り、自身のテーマを如何に具現化するか制作の展開をはかる。また、活躍している作家による特別講義や実技、合評等を通して、自身の作品を客観視する力を養う。
美術・工芸演習 (陶芸) 		8単位	多様化する現代の陶芸だが、独自の表現を求めるときに、釉薬や土、焼成、制作の技術を知ることが大変重要である。それらの技術を再確認するとともに、自身の制作へ還元することを狙う。素材、技法に各自の感性を組み合わせることで他者に感動を与えるような新しい表現の確立を目指す。
美術・工芸演習 (染織) 		8単位	染織の魅力とは何だろう。日本には様々な技法、様々な素材があり、驚くような手法で染織品が作られている。その地域で培った技、使いやすい道具、歴史、それらを伝える知恵が満ち溢れている。本科目ではそれらの知恵に触れるとともに、現代に生きる担当教員それぞれのワークショップや技法研究、レクチャー等を通じ、新たな発想と技法との関わりを探る。

美術・工芸領域 研究科目

科目名	科目分類	単位数	履修内容
美術・工芸研究 (日本画) 		8単位	「美術・工芸演習(日本画)」で学んだことに、各自が社会に向けて発したいメッセージを重ね、独自の表現方法を確認していく。広い視野で社会全体と美術界を把握し、その中での自己の立ち位置を見定め、精神に訴える作品へと創作の向上をめざす。描くことと自分が生きることとの関連を見出し、大学院修了後も続いていく創作活動の指針と礎を築く。

美術・工芸領域 研究科目

科目名	科目分類	単位数	履修内容
美術・工芸研究 (洋画) SR	必	8単位	「美術・工芸演習(洋画)」で学んできたものを、より確かなものへと上げていく。社会のさまざまな状況を俯瞰し、テーマ・発想・表現・素材・技法等を研究、自身の内面的要素の造形化に努める。また、西洋と日本がそれぞれ培ってきた優れた空間意識を学びながら、普遍的な造形表現についての認識を新たに、想像から創造へ、柔軟な思考の中から個性的な造形表現を模索し、生涯いきいきと制作活動に励む「創り手」の育成をめざす。
美術・工芸研究 (陶芸) SR	必	8単位	「美術・工芸演習(陶芸)」での研究制作を発展させ、大学院修了後の創作活動への道を探る。また、技法の研究と素材としての土を見つめ直し、自らの表現を修了制作へ向けて深化させる。造形表現としての陶芸と、日常使うものとしての器を区別することなく各自の表現として捉えるところに、各自の独自性を求めていきたい。同時に制作研究ノートの作成で自らの創造の原点を再確認する。
美術・工芸研究 (染織) SR	必	8単位	「美術・工芸演習(染織)」での物作りは各自の制作への新たなアプローチとなったであろう。自作を語る上で、他者の目や過去の技法から刺激を受け、展開を計ることは制作者として真つ当なことだ。「美術・工芸研究(染織)」では各地に残る伝統的な素材の扱いや技法研究のため、現地に赴き、勉強会の形でワークショップを開催する。大学院で受けた刺激をどのような形で収穫するか、熟成の時間を楽しみながら人生での染織の役割を考えていく。

環境デザイン領域 演習科目

科目名	科目分類	単位数	履修内容
環境デザイン演習 (建築デザイン) SR	必	8単位	建築設計の演習課題に取り組む。課題を通じて、建築設計の実際的なプロセスを学ぶとともに、設計に対する考え方、何を手がかりにそれを進めるかについて学ぶ。クライアントから提示される実際的な要求を真摯に受け止めることからはじめ、基本設計から詳細の納め方、平面計画、構造・設備計画、外構計画に至るまで、現在進行形の実際を身につける。
環境デザイン演習 (日本庭園) SR	必	8単位	日本庭園の歴史・技術・保存修復に関わる基本的かつ本質的な講義をおこなうとともに、その実情を現地研修で検証する。また講評においては、各自が研究テーマ発表し、それぞれの研究の方向性、的確な史資料収集と分析法、有効な現地調査の手法、表現法等を助言する。これらのプロセスを通じて、各々の研究・調査・制作テーマの絞り込みと内容の深化を促す。

環境デザイン領域 研究科目

科目名	科目分類	単位数	履修内容
環境デザイン研究 (建築デザイン) SR	必	8単位	「環境デザイン演習(建築デザイン)」の成果をふまえて、前期は建築設計の演習課題に、後期は修了制作に取り組む。課題を通じて、建築設計の実際的なプロセスを学ぶとともに、設計に対する考え方、何を手がかりにそれを進めるかについて学ぶ。クライアントから提示される実際的な要求を真摯に受け止めることからはじめ、基本設計から実施設計までの作業を行うことで、設計密度をあげる。
環境デザイン研究 (日本庭園) SR	必	8単位	「環境デザイン演習」での成果をふまえた上で、各自の論文、調査研究、制作を進めていく。論旨の明確さ、史資料分析の緻密さと考察結果の妥当性、論理構築におけるプロセスの整合性、文章力をはじめ表現の作法と正確さなどを懇切丁寧に個別指導することによって、独自の新知見を提示しうる最終成果品の完成をめざす。




超域プログラム 演習科目

科目名	科目分類	単位数	履修内容
超域制作学演習 SR	必	8単位	学生各自の修了研究に向けて、準備的な作業と試作を行う。

超域プログラム 研究科目

科目名	科目分類	単位数	履修内容
超域制作学研究 SR	必	8単位	学生個々の修了研究を合評と遠隔講評により指導する。

自由選択科目

科目名	科目分類	単位数	履修内容
芸術計画実践 I、II 	選	各2単位	本科目はひとりまたは複数のメンバーの関わる課外の制作・研究活動について、受講生各自がその計画を報告し、講評を受けることで授業とする。地域プロジェクト実施、フィールドワークや現地研修の受講、展覧会運営等、活動の種類は問わないが、集団での取り組みを題材とする場合も、レポートはあくまでも個人の資格で分析し、報告を行うこととする。
環境デザイン実習 I~IV (インターンシップ/建築) 	選	各4単位	建築士事務所に出向き、設計図書の作成等の建築設計の補助業務を行う。事前ガイダンスへの参加、面談、報告書の提出が必須となる。 ※建築デザイン分野のみ履修可
論文研究基礎 	選	1単位	論文執筆にあたって必要な、参考文献の探し方、専門的な辞書類の活用方法や図書館の利用方法など、各自の文献検索に資する情報をガイダンスする。その上でグループ討議などを通じて、先行研究に対する客観的批判力を養う。

共通科目

科目名	科目分類	単位数	履修内容
芸術史講義(日本)1 	選	2単位	日本の造形芸術について、その成立から平安時代、鎌倉時代を中心に学びます。
芸術史講義(日本)2 	選	2単位	日本の造形芸術について、近世および近代の絵画・工芸を中心に学びます。
芸術史講義(日本)3 	選	2単位	日本の文学、芸能、音楽の古代から近世に至るまでの流れを辿ります。
芸術史講義(日本)4 	選	2単位	江戸時代から明治期に至るまでの文学、歌舞伎、話芸、民俗芸能について学びます。
芸術史講義(アジア)1 	選	2単位	中国の古代から明清時代に至るまでの芸術史を学びます。
芸術史講義(アジア)2 	選	2単位	朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インドなどアジア各地の芸術史を学びます。
芸術史講義(アジア)3 	選	2単位	中国の文学、音楽、舞台芸術について、古代から19世紀までの流れを学びます。
芸術史講義(アジア)4 	選	2単位	朝鮮半島、インド、東南アジアの文学、上演芸術について学びます。
芸術史講義(ヨーロッパ)1 	選	2単位	ヨーロッパの造形芸術の成立から盛期ルネサンスまでの展開を理解します。
芸術史講義(ヨーロッパ)2 	選	2単位	盛期ルネサンスから20世紀はじめまでの造形芸術の歴史を辿ります。
芸術史講義(ヨーロッパ)3 	選	2単位	ヨーロッパの文学、音楽、舞台の歴史を古代ギリシアから18世紀まで辿ります。
芸術史講義(ヨーロッパ)4 	選	2単位	18世紀・19世紀のヨーロッパ諸国の上演芸術作品の諸潮流を学びます。
芸術史講義(近現代)1 	選	2単位	20世紀初頭から21世紀まで、特に欧米での造形芸術の流れを学びます。
芸術史講義(近現代)2 	選	2単位	アジアやアフリカなどの動向や建築、写真、ファッションなどの歴史を学びます。
芸術史講義(近現代)3 	選	2単位	19世紀末からの文学、舞台芸術の流れを社会の動きとあわせて学びます。
芸術史講義(近現代)4 	選	2単位	近現代の欧米とアジアの音楽、映画そしてサブカルチャーの変遷を学びます。